

肺気量分画測定・フローボリュームカーブ					S001
VC・FVC					担当部署
生理					
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→呼吸機能検査→簡易呼吸機能(VC・FVC)			
	2				
	3	電子カルテ→指示①→生理→呼吸機能検査→簡易呼吸機能(VC・FVC・3内パターン)チェスト			
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		気管支拡張薬(β2 刺激薬)			
検査受付時間		8 : 45~17 : 30			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		<p>1) 検査直前の激しい運動は避ける。</p> <p>2) 体を締め付けるような服装(ボディスーツ、コルセット)はゆるめる。</p> <p>3) 食事などに制限はないが、検査直前の過食や喫煙は検査データに影響を及ぼす可能性があるため、できるだけ避ける。</p> <p>4) 薬剤吸入後(気管支拡張剤)の指示がある場合は外来にて薬剤吸入し30分後に測定する。</p>			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	人体(呼気ガス)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		ベッド可能			
検体受入不可基準		1)理解力不足の患者(乳児、幼児を含む)			

	2)協力の得られない患者 3)意識レベルのない患者 4)検査に同意が得られない患者 5)身体的な理由によりマウスピース、マスクを使用できない患者					
保管検体の保存期間	特記事項なし					
検査結果・報告						
検査室の所在地	病院棟 3 階 中央検査部					
測定時間	3 時間					
生物学的基準範囲	①%肺活量(%V C) 80%以上：正常 80%未満：拘束性換気障害 ②1 秒率(F E V1%) 70%以上：正常 70%未満：閉塞性換気障害 ③1 秒量(F E V1) 1 秒率 70%未満の閉塞性障害を示すC O P Dのうち、%F E V1 が 80%以上：軽症 50~80%：中等症 30~50%：重症 30%未満：最重症					
臨床判断値	該当なし					
基準値					単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因	該当なし					
臨床的意義	呼吸機能検査は、画像診断検査や生検による組織・細胞検査とともに、呼吸器疾患の診断において重要な役割をもつ。近年の呼吸病態生理学の進歩によって、多種多様な肺機能検査や検査機器が開発され、以下に示すように多くの分野で活用されている。 ① 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の診断、重症度評価(スパイロメトリー) ② 気管支喘息の機能診断 ③ 間質性肺疾患の機能診断(スパイロメトリー、肺拡散能力など) ④ 各種呼吸器疾患の治療効果判定、経過観察 ⑤ 外科手術の術前検討 ⑥ じん肺法、身体障害者福祉法(呼吸器) などの肺機能障害認定					